脳性まひの子どものための意思表示教材

「こんなとき、どのカード？」

発表番号 202116

発表の流れ

①対象生徒
②学習指導要領における位置づけ
③指導目標
④評価規準
⑤教材の概要
⑥教材の準備
⑦教材の使い方
⑧工夫した点
⑨改善すべき点
⑩参考

①対象生徒

・中学生女子
・脳性まひ　(知的障害あり)
・泣くことによって意思表示をする
・発語は「あー」や「うー」がほとんど
・手を動かし、手で物を持つことができるが、指先の細かな動きに困難がある
・相手の言っていることは理解できる

②学習指導要領における位置づけ

第6章　自立活動の内容
6　コミュニケーション
（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
①　この項目について
「（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。」は，話し言葉や各種の文字・記号，機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し，他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすることを意味している。

（特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編p97）

②学習指導要領における位置づけ

② 具体的指導内容例と留意点

・・・言葉でのコミュニケーションが困難な場合，まず，自分の意思を適切に表し，相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり，話し言葉を補うために絵カードやメモ，タブレット端末等の機器等を活用できるようにしたりすることが大切である。

(特別支援学校教育要領・学習指導要領　自立活動編p99)

③指導目標

①教材の使い方がわかる

②教材を使って泣くことなく意思表示をすることができる

③コミュニケーションの楽しさを知る

④評価基準

①教材の使い方がわかる

◎意思表示絵カードの表す意味がわかる。

〇教師の支援により、意思表示絵カードの表す意味を理解できる。

②教材を使って泣くことなく意思表示をすることができる。

◎教師の支援なしで意思表示絵カードを選択し、相手に提示することができる。

〇教師の支援はあるが、意思表示絵カードを選択し、相手に提示することができる。

④評価基準

③コミュニケーションの楽しさを知る

◎自ら意欲的に意思表示絵カードを選択し、相手に伝えようとする。

〇教師の支援のもと、意思表示絵カードを使って相手に意思表示をしようとする。

⑤教材の概要

紙芝居に描かれた場面を見て、意思表示をするのにふさわしい絵カードを選択して相手に提示する。

⑥教材の準備

①意思表示絵カード

準備物： 紙、ラミネートフィルム、ラミネーター、インデックスシール、穴あけパンチ、ビニールテープ、紐

⑥教材の準備

②紙芝居

準備物 ： 紙、ラミネートフィルム、ラミネーター

⑦教材の使い方

①教師が紙芝居を見せ、場面の状況を説明する。
②生徒がその状況で意思表示をするのにふさわしい絵カードを選び、教師に提示する。

⑧工夫した点

・意思表示絵カードにインデックスシールを使い、生徒が伝えたいことを探しやすくした。

・意思表示絵カードの周りにビニールテープを貼り、指先の動きに困難がある生徒でもカードをめくりやすくした。

・日常生活でもすぐに手に取れるように、絵カードに紐をつけて首や車いすにかけられるようにした。

⑨改善すべき点

・首に紐をかけると事故の危険があり、車いすにかけると車輪に巻き込むおそれがある。
→車いすの手が届く場所にポケットを設置し、絵カードを収納する。

・様々な場面の紙芝居を印刷してラミネート加工するのは時間と資源が多くかかってしまう。
→タブレットなどのICT機器を活用する。

⑩参考

和歌山市が交付する『Myコミュニケーションカード』

自閉症、知的障害者、聴覚障害者、精神障害者等で自分の意思を相手に伝えることが難しい方が、イラストを指して、相手とコミュニケーションをとるためのカードです。

[Myコミュニケーションカードについて｜和歌山市 (city.wakayama.wakayama.jp)]

以上で発表を終わります。
ありがとうございました。